

鹿児島東高校・高等特別支援学校図書館だより

# とうてんびより 東天日和

令和3年5月号

発行：鹿児島東高等学校

高等特別支援学校合同図書館



新年度が始まって1ヶ月。

ゴールデンウィークも終わり、休みにリフレッシュできた人もいれば、何となく気力がなくなったり、体調が優れない人もいるのではないのでしょうか。

5月の図書館特集は、そんなちょっと気持ちが落ち着かない時に読んで欲しい、

## 『心を整える本』です。

日々の生活習慣や考え方を少し変えてみたり、改めて自分の心に向き合い整理することで、気持ちがスッキリするかもしれません。

最近話題の「繊細さん」や「敏感すぎる人」の本から、気付きを与えてくれる名言や詩、ほっこりする絵本まで、心の薬になるような本を集めました。

※5月7日(金)と  
5月14日(金)は  
司書不在のため休館します。





## 5月12日は『看護の日』

1820年5月12日、イタリアのフィレンツェで、近代看護制度の創始者、フローレンス・ナイチンゲールが誕生しました。

その日を記念して、5月12日は『看護の日』、5月12日を含む週の日曜日から土曜日までが『看護週間』とされています。

看護の仕事そのものが重要だと考えられず、蔑まれた時代に、病院の施設、患者の食事や寝具、衛生環境等の改善を求め、それまでの看護の常識を次々と覆していき、看護師を養成する学校を作って近代看護法を精神を打ち立てたフローレンス・ナイチンゲール。

彼女の記した『看護覚え書』は、今でも看護師のバイブルとなって学び継がれています。

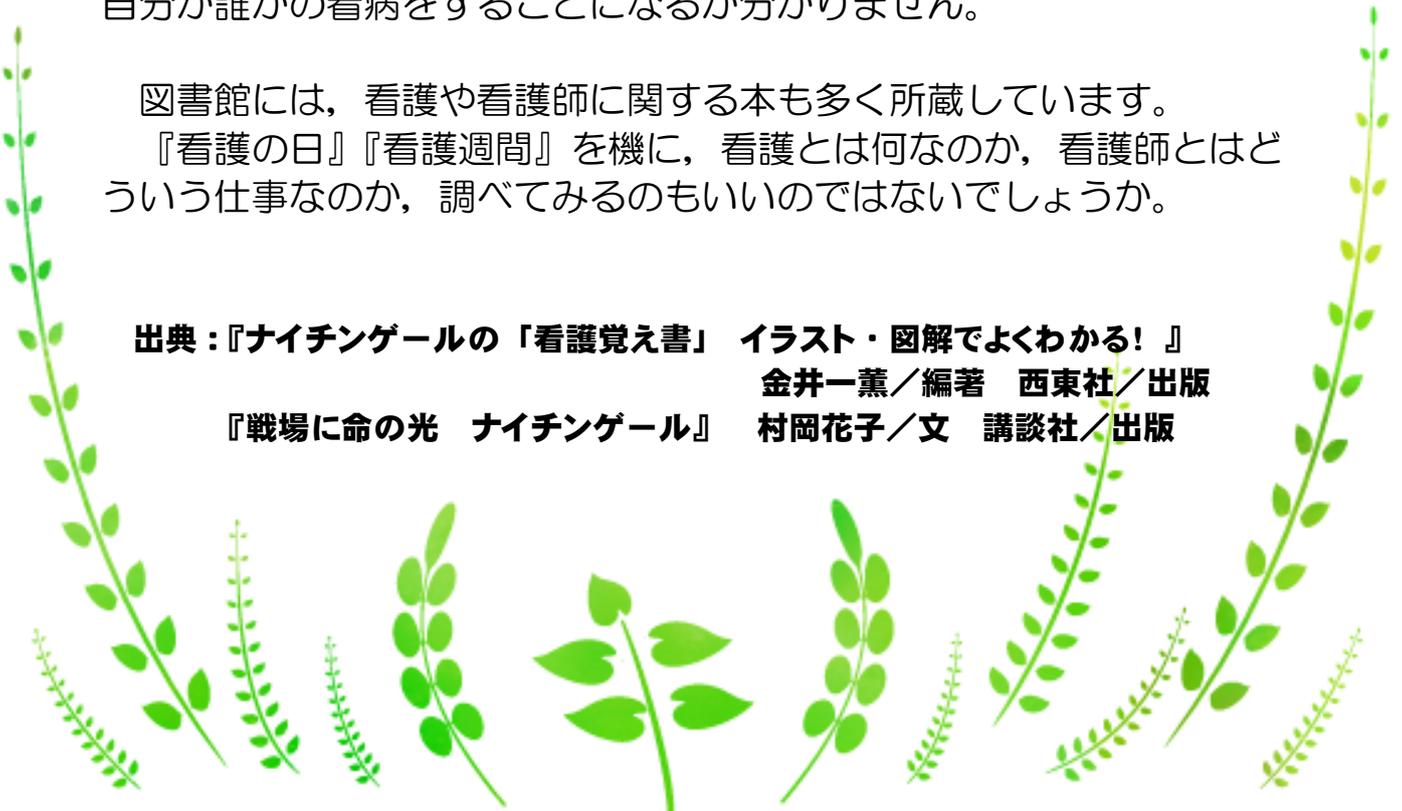
コロナ禍の現代、ますます正しい看護の知識、看護師の存在の重要性は高まっています。

皆さんもこの先、いつ、どこで看護師さんのお世話になるか、また、自分が誰かの看病をすることになるか分かりません。

図書館には、看護や看護師に関する本も多く所蔵しています。

『看護の日』『看護週間』を機に、看護とは何なのか、看護師とはどういう仕事なのか、調べてみるのもいいのではないのでしょうか。

**出典：『ナイチンゲールの「看護覚え書」 イラスト・図解でよくわかる!』**  
**金井一薫／編著 西東社／出版**  
**『戦場に命の光 ナイチンゲール』 村岡花子／文 講談社／出版**



# 本屋大賞

## 歴代受賞作品一挙紹介！

先月、第18回2021年本屋大賞が発表されました。

受賞したのは町田そのこさんの『52ヘルツのクジラたち』。

「売り場からベストセラーを作る！」をコンセプトに、2004年からスタートした本屋大賞は、商品である本と顧客である読者の両方をもっとも知る書店員のみでの投票で決められます。

今回は歴代の本屋大賞受賞作品にはどのようなものがあるのか、簡単なあらすじと共に一挙紹介していきます。

歴代受賞作品のほとんどが図書館に所蔵してあるので、気になるものがあったら是非借りにきてくださいね。



=過去に映像化されている、または映像化の予定がある作品

1回	博士の愛した数式	小川洋子／著	新潮社／出版
80分しか記憶が持たない天才数学者と彼の世話をする家政婦の「私」、そして「私」の10歳の長男。ちぐはぐな3人が紡いでいく、驚きと喜びに満ちた奇跡と愛の物語。			
2回	夜のピクニック	恩田陸／著	新潮社／出版
高校生活最後の一大イベント・夜を徹して80キロを歩き通す「歩行祭」で、貴子は1つの賭けを胸に秘めていた・・・少年少女の抱える秘密が一つの夜を交錯する青春群像劇。			
3回	東京タワー オカンとボクと、時々、オトン	リリー・フランキー／著	扶桑社／出版
1人の男の少年時代から青春のさまよいを経て、「オカン」と過ごした最期の日々までを描いた、リリー・フランキーの自伝的小説。			
4回	一瞬の風になれ 1～3	佐藤多佳子／著	講談社／出版
特に強豪でもない高校の陸上部に入部した2人のスプリンター。ひたすらに走る、そのことが次第に2人を変え、そして部を変える一。思わず胸が熱くなる、とびきりの陸上青春小説。			
5回	ゴールデンランバー	伊阪幸太郎／著	新潮社／出版
突如首相暗殺の濡れ衣を着せられた男の、日本中を巻き込んだ逃走劇が幕を開ける。散りばめられた伏線を回収しながら行き着く先は・・・人を信じることの究極を描いたクライムサスペンス！			
6回	告白	湊かなえ／著	双葉社／出版
「愛美は事故で死んだのではありません。このクラスの生徒に殺されたのです」——1人娘を学校のプールで亡くした中学教師。彼女の企てた復讐は、誰も予想できないものだった・・・湊かなえ鮮烈のデビュー作！			
7回	天地明察	冲方丁／著	角川書店／出版
江戸時代、「日本独自の暦を作る」という前代未聞のミッションに生涯を賭けた男がいた。碁打ちにして数学者の渋川春海。彼の20年に渡る奮闘・挫折・喜び、そして恋を描く歴史ロマン。			

8回	謎解きはディナーのあとで 	東川篤哉／著	小学館／出版
令嬢であり新人刑事の宝生麗子が遭遇した事件を、彼女の執事・影山が現場を見ずとも鮮やかに解決！強気なお嬢さま刑事×毒舌有能執事が織りなすユーモアミステリー！			
9回	舟を編む 	三浦しをん／著	光文社／出版
新しい辞書『大渡海』出版の為、営業部から辞書編集部に異動になった馬締（まじめ）。辞書作りの道は想像以上に厳しく、長く険しいものだった・・・『大渡海』は果たして完成するのか！？			
10回	海賊と呼ばれた男 上下 	百田尚樹／著	講談社／出版
20世紀の産業を興し、人を狂わせ、戦争の火種となった巨大エネルギー・石油。その石油を武器に変えて世界と闘った男、出光興産の創業者・出光佐三をモデルにした歴史経済小説。			
11回	村上海賊の娘 上下 	和田竜／著	新潮社／出版
戦国時代に瀬戸内海を席卷した村上水軍当主の娘・景（きょう）。織田と毛利の戦において、村上水軍は毛利方に加勢、景も戦いに身を投じる。第一次木津川合戦の史実に基づく一大巨篇！			
12回	鹿の王 上下 	上橋菜穂子／著	KADOKAWA／出版
奴隷に落とされた元戦士団<独角>の頭・ヴァンと、謎の病の治療法を懸命に探す医術師のホッサル。2人の男を中心に繰り広げられる、緻密な医療サスペンスにして壮大なるファンタジー！			
13回	羊と鋼の森 	宮下奈都／著	文藝春秋／出版
高校生の時、偶然ピアノ調律師と出会い、調律の世界に魅せられた外村。ピアノを愛する姉妹や先輩、恩師との交流を通じて成長していく青年の姿を、温かく静謐な筆致で綴った感動作。			
14回	蜜蜂と遠雷 	恩田陸／著	幻冬舎／出版
——私はまだ、音楽の神様に愛されているだろうか？ あるピアノコンクールを舞台に、人間の才能と運命、そして音楽を描き切った青春群像小説！			
15回	かがみの孤城	辻村深月／著	ポプラ社／出版
部屋の鏡が光る先には、学校で居場所をなくした7人の子どもが集められた不思議な城。なぜ私たちが、なぜこの場所で。ラスト、全てが明らかになる時、驚きと共に大きな感動に包まれるー。			
16回	そして、バトンは渡された 	瀬尾まいこ／著	文藝春秋／出版
父親が3人、母親が2人いて、17年間で家族の形態が7回変わった森宮優子。だが、困ったことに全然不幸ではないのだー。血の繋がらない親の間をリレーされてきた少女の、とある幸福な物語。			
17回	流浪の月	凧良ゆう／著	東京創元社／出版
誘拐犯の青年と、誘拐された少女。かつて世間にそう報じられた2つの孤独な魂が再び出会う時、運命は周囲の人間を巻き込みながら疾走を始める。普通とは、常識とは何かを問いかける傑作小説。			
18回	52ヘルツのクジラたち	町田そのこ／著	中央公論新社／出版
海が見える大分の片田舎に引っ越してきた女性・貴瑚は、ある日母に虐待され、「ムシ」と呼ばれている少年に出会う。人生を家族に搾取され、心に傷を負ってきた貴瑚は、彼のことが放っておけず・・・ 孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う時、新たな魂の物語が生まれるー。			